

特別展「神々と出逢う―神奈川の神道美術―」を終えて

吉 田 茂 穂

神奈川県神社庁設立六十周年を記念して去る二月十八日より五月七日までの期間、神奈川県立歴史博物館において、特別展「神々と出逢う―神奈川の神道美術―」が開催されましたことはこの上ない慶びでありました。

相模国と武蔵国からなる神奈川県は山海の自然に恵まれ、在地の神々に対する信仰もこうした環境を基盤に発展してまいりました。神奈川県下には歴史ある古社が多数存在し、特色ある神事や祭事、さらに多くの神像や縁起、神宝などが今日に至るまで大切に伝えられ、貴重な文化遺産の宝庫となっております。

神道は天地万物・生命の根源に対する畏敬と感謝の心を基盤に日本人の信仰生活の中で発展して来たものです。我々の先祖が守り伝えて来た「神威を畏み、神を敬う」

伝統的な宗教心意のあり方を神道関係の遺宝の公開を通して広く紹介し、理解して戴きたいと思ったことでした。

しかし、この美術展の企画は最初から実施しようと考えていたわけではなく、当初は神奈川県神社庁の設立六十周年に合わせて、神奈川県下の各神社にどのような神道関係の遺宝がどのぐらい存在するのか、その実態を調査・把握するということになりましたが、調査が進むなかで記録に留めるだけでは勿体ないので、広く紹介しようということになったのです。

調査は先ず、全県下の神社（一三六社）へのアンケート調査を実施、寄せられた回答を精査し、詳細な現地調査を行う神社を選定、約四十五社に絞り込みました。現地調査は時間のかかる慎重を期す作業でしたが、各社の

The Sacred Art of Shinto

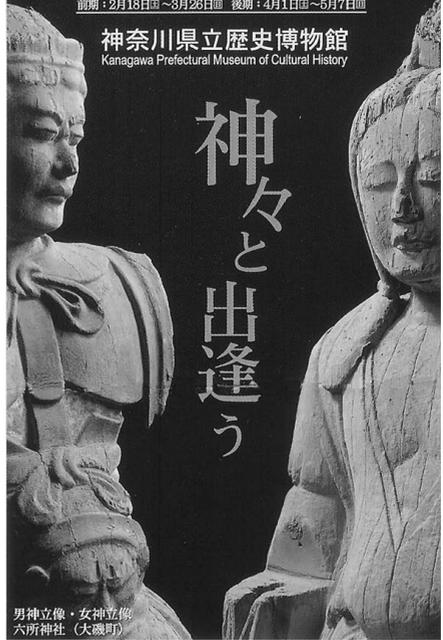
神奈川県神社庁設立60周年記念特別展
神々と出逢う—神奈川の神道美術—

平成18年
2月18日(土) — 5月7日(日)

前期：2月18日(土)～3月26日(日) 後期：4月1日(土)～5月7日(日)

神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

神々と出逢う



男神立像(大磯町)
女神立像(六所神社)

宮司、総代、役員の皆様の全面的なご協力を戴き、展示すべき貴重な文化財の数々に出逢うことになりました。初めてその存在が確認されたものもありました。関東最古の木像で山岳信仰を広めていった万巻上人の像、これまで神奈川には存在しないと思われるいた素盞男尊と櫛稲田姫命の像、袍を着て冠をかぶる典型的なご神像でありながら、その上から袈裟をつけているまさに神仏一体化したご神像など興味深いものが数多くありました。

展示構成につきましては、姿を顕した神々(神像彫刻・狛犬・神像絵画等)、神々の物語(諸社縁起絵巻・宮曼陀羅

展示致しました。また、記念催事と致しまして、「鎌倉神楽」(鎌倉市無形文化財)、「菊名の飴屋踊り」(県無形民俗文化財)の実演をも実施し、記念展としての内容に相応しく致しました結果、大勢の拝観者に喜んでいただけましたものと思っております。

元来、日本の神々は山川草木の中に息づく霊的存在で目にすることは出来なかったわけです。ご神体は神そのものではなく、この世に降臨する場所・物で依代と呼ばれ、鏡、玉、剣、鉾、鈴、神像などがそうです。神道の原初的信仰は奈良の大神神社の三輪山、和歌山那智の飛

等)、仏と習合する神々(懸仏・修験関係尊像・梵鐘・鰐口等)、神々の宝物(古神宝・面・絵馬・武具等)という組み立てにし、彫刻を中心に絵画、工芸品を各神社から出陳いただくことと致しました。更に、教化活動をも視野に入れて、テーマを「神奈川の神社と歴史」と題して、神社の紹介、祭祀沿革、祭礼の様子等、コレクション展示にも取り組みました。最終的には、県下各神社およびその周辺に伝蔵する神道関係遺宝、約二百点を

滝神社の那智の滝がご神体でした。しかし、六世紀に仏教が伝来し、仏像が礼拝（偶像崇拜）されるようになる、その影響で在来の神々にも形が与えられ、ご神像が造られるようになったのです。

ご神像を造って祀るということは信仰しやすい対象をもつという側面があります。その為に神聖視された霊木を用いたりしたのです、ですからその木の形のまま彫った為に像形自体が歪んでいたりしているものもありました。自然そのままの姿を愛で、そこに神聖なものを見出す日本の美意識があつてこそ、こうしたご神像が生まれたのだという印象を強くしたことでした。展示されたご神像を拝見しておりますと、どのご神像の表情も身近な人を連想させるようで、何か会場全体がやわらかで穏やかな雰囲気、仏像の表情とは全く異なり一般の仏像彫刻展とは違った空気を感じた次第です。

今回の調査は神奈川県神社庁としては初めての試みであり、一般公開の特別展にまで発展し、神奈川県立歴史博物館としても記録的な拝観者数だと伺いましたし、また多くの専門家の高い評価も戴きましたが、まだまだきめ細かい調査を続ける必要があると思っております。

今後、各都府県がそれぞれ同様な調査を実施され、全国的に神道美術の遺宝の全容が明らかになるなら、どん

なに素晴らしいことだろうかと思えます。

今回の調査から展示に至るまでご指導戴きました関係各位のご労苦と各神社の宮司、総代、役員の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

（神奈川県神社庁長・鶴岡八幡宮宮司）